

7. 木質バイオマス利活用の実態 (6)

木質ペレット輸出量の国別推移

一口メモ 4 (5)「木質ペレット国際貿易の実態」でメモしたように、木質ペレットの需要が生産を上回る国々では生産過剰の国からの輸入によって需給バランスを計っている。ここでは先ず輸出国の実態を見ることにする。

FAOSTAT データベースによると、世界の輸出総量は 2020 年 (2,921 万 t) には 2015 年 (1,621 万 t) の 1.8 倍にも達し、国際貿易がますます活発化していることを示唆している。図表 7.6 は、2020 年の国別木質ペレット輸出量のトップ 10 について、2015 年の実績と比較したものである。これらからは以下のことが注目される。

- 米国は最大の輸出国で、輸出量 720 万 t は 2 位のベトナムを大きく引き離し、カナダ、ラトビア、ロシア・・・と続く。トップ 10 の中には、北米 2 国、アジア 2 国、EU 2 国、バルト 3 国、ロシアが含まれる。
- 各国の輸出先は、米国は東海岸から大西洋航路で EU へ、カナダは西海岸から太平洋航路で日本、韓国およびパナマ運河を経由して EU へ、ベトナムとカンボジアは韓国と日本へ、オーストリアとドイツは EU 圏内での取引、バルト 3 国とロシア西部はバルト海の地の利を生かして EU へと、それぞれ輸出先は決まっている。
- これら国々の生産量に対する輸出量の割合は、ベトナム、ラトビア、リトアニア、マレーシアでは 90~100%、アメリカ、ロシアが 80% 台、カナダが 70% 台と高く、これら諸国のペレット産業は輸出に強く依存しているといえる。
- 2015 年と比較すると輸出量はすべての国で増加している。とくにベトナムは 3.3 倍にも増加しカナダを抜いて第 2 位にランクアップしている。すでに一口メモ 4 (6)「ベトナムの実態」で述べたように、ベトナムのペレット産業は多くの課題を抱えこのまま推移するかは疑問で、今後もよく注視する必要があるだろう。さらにマレーシアは 4.3 倍、ロシアは 2.5 倍に、その他にブラジルは 10 倍近い伸びを示し、今後の展開が注目される。

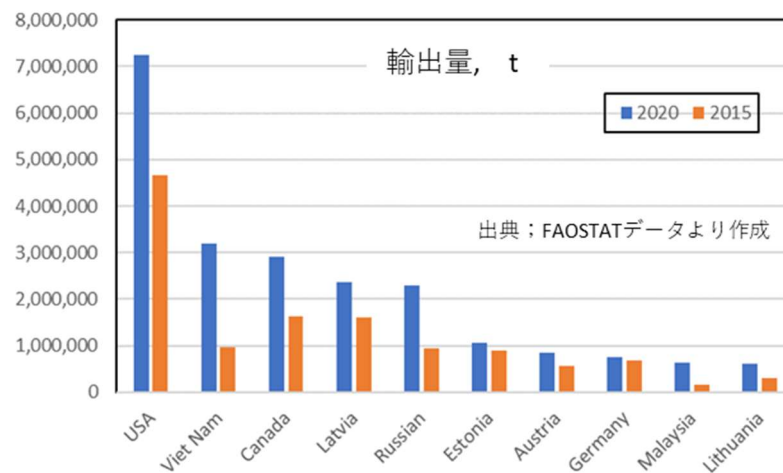


図 7.6 木質ペレットの国別輸出量とその推移